

データ分析をもっと身近に！

日本版総合的社会調査のデータを学校の授業でご活用ください

本パンフレットは、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）や国際バカロレア（IB）認定校の高校生から JGSS データの利用希望が寄せられたことから、高等学校向けに作成したものです。データサイエンスへの注目が高まるなか、統計についての授業・演習・ワークショップなどでの利活用を期待しています。

日本版総合的社会調査（JGSS）

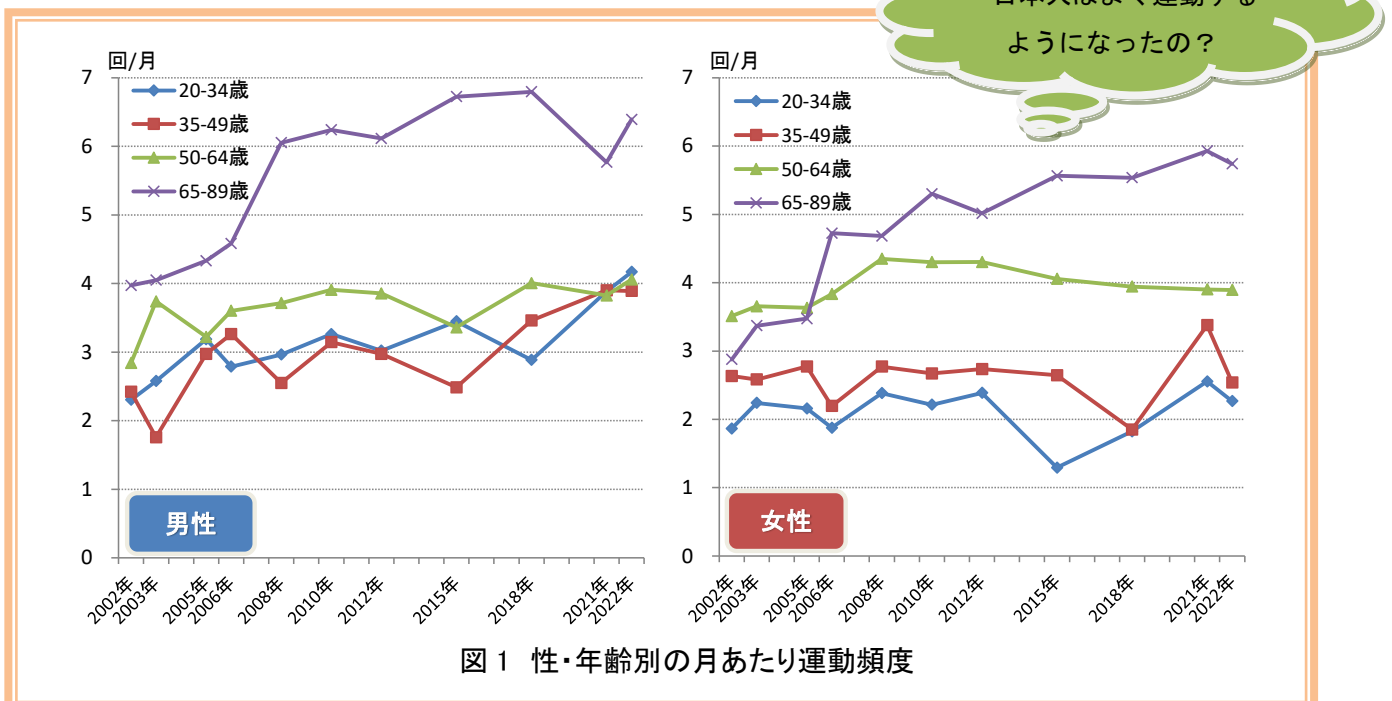
日本版総合的社会調査（Japanese General Social Survey：JGSS）は、1972年にスタートしたアメリカの General Social Survey (GSS) の理念を日本で実現したものです。調査は1～2年に1回、日本全国の20歳から89歳の方を対象に行っています。JGSSでは、基本的に面接調査票と留置調査票を併用しています。面接では職業、世帯構成、学歴などの基本的な情報を尋ね、留置では日常行動、余暇活動、犯罪被害、政治・社会政策に対する考え方、時事問題の賛否などを尋ねています。

JGSS の調査項目

JGSS の調査項目は、原則的に毎回調査する中心的な設問と、1回限りあるいは数回に1度だけ調査する時事的な設問に分けられます。中心的な設問には、回答者の職業や世帯構成などの基本的な設問と、回答者の日常的な行動や基本的な生活意識、政治意識などに関する設問が含まれます。時事的な設問には、それぞれの調査時点で世間の注目を集めている出来事に関する設問や、集中的な分析が行いやすいように特定のテーマに焦点を絞って組み込んだ設問が含まれます。

各回調査の項目は https://jgss.daishodai.ac.jp/surveys/sur_question.html をご参照ください。

JGSS の調査結果の紹介



新聞や本を読む頻度は
どう変化しているの？

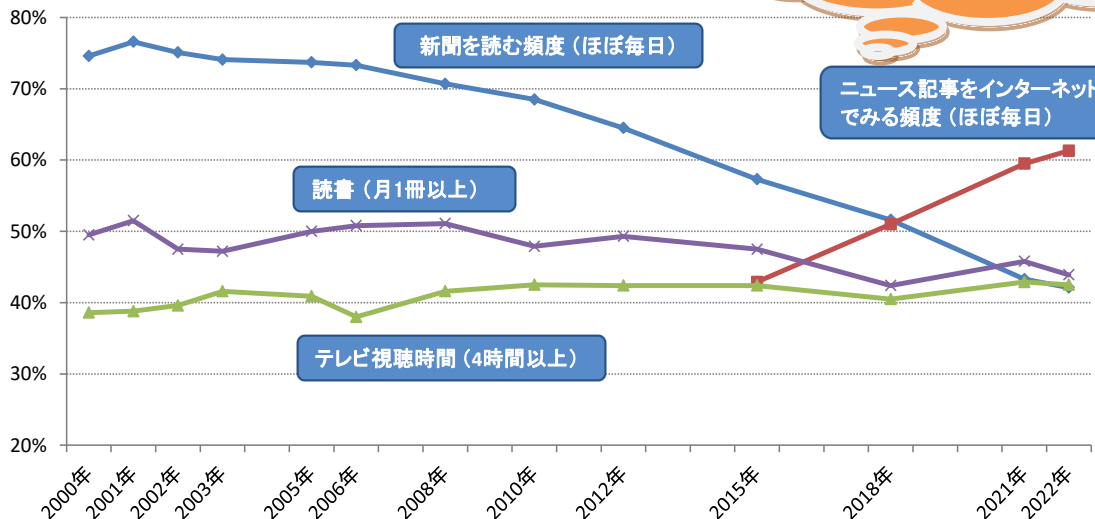
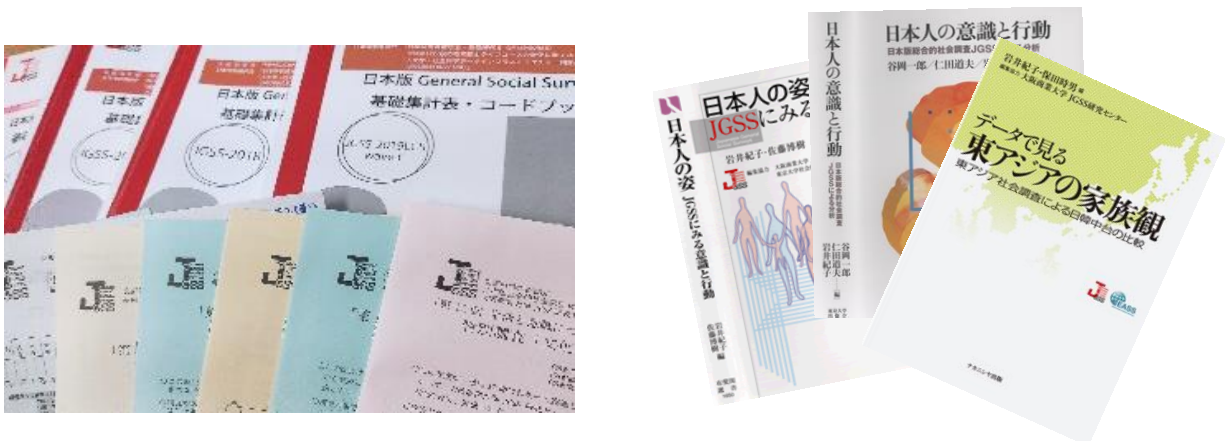


図2 新聞や読書の頻度とテレビの視聴時間

例えば、中心的な設問である日常行動に関しては、運動頻度、新聞や読書の頻度、テレビの視聴時間について継続的に調査しています。図1と図2のように、各調査時点の回答の結果だけでなく、調査期間中のトレンドも考察できます。JGSS データを利用することで、性別や年齢、学歴などとの関連について分析ができます。JGSS データは、1つの領域について詳細な情報を提供するものではありませんが、社会科学の多くの領域について基礎的なデータを提供しており、多岐にわたる分野について分析することを可能にしています。

JGSS に関する情報と調査結果の公表

JGSS 調査は、得られたデータを教育・研究のために速やかに公開することを前提として企画されており、二次分析に必要な調査に関する情報をホームページ (<https://jgss.daishodai.ac.jp>) に積極的に公開しています。回答分布をまとめた基礎集計表・コードブックは、調査の約1年半後に公表されます。JGSS プロジェクトから得られたこれまでの調査結果は、『日本人の姿』(有斐閣)、『日本人の意識と行動』(東京大学出版会)、『データで見る東アジアの家族観』(ナカニシヤ出版)などの刊行物として公表しています (https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_book.html)。



- JGSS/EASS の調査概要 https://jgss.daishodai.ac.jp/surveys/sur_top.html
- 基礎集計 (ウェブ版) https://jgss.daishodai.ac.jp/surveys/sur_variables_index.html
- 新聞などでの掲載と調査結果速報 https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_result.html

授業や教材で利用されています

2023年2月に刊行された高校教科書『詳述倫理』（実務出版株式会社）では、JGSSの幸福感に関する調査結果が紹介されました。また、スーパーサイエンスハイスクール（SSH: Super Science High Schools）の指定校や国際バカロレア（IB: International Baccalaureate）の認定校の高校生からJGSSデータの利用希望が寄せられました。

JGSSのデータは、「社会調査士」や「専門社会調査士」取得を目指す大学や大学院の授業、経済学や政治学、統計学、データサイエンスフィールドワークの演習などで活用されています。また、『社会調査法（データサイエンス大系）』（伊達平和・高田聖治著、2020）、『社会調査の方法論』（松本渉著、2021）、『データ分析をマスターする12のレッスン』（畑農鋭矢・水落正明著、2017）などの教材でも利用されています。

JGSSとEASSの公開データ一覧（表1）

JGSS		JGSS	
調査名	テーマ	調査名	テーマ
第1回予備調査		JGSS-2015	EASS 2015「仕事と生活」
第2回予備調査		JGSS-2016 (JGSS-2015の拡張版)	JGSS-2015と調査票同一
JGSS-2000		JGSS-2017/2018 統合データ	EASS 2016「家族」
JGSS-2001		JGSS-2017G/2018G 統合データ	EASS 2018「文化とグローバル化」
JGSS-2002		JGSS-2019LCSwave3	JGSS-2009/13LCSの追跡
JGSS-2003	ネットワーク	EASS	
JGSS累積データ 2000-2003			
JGSS-2005			
JGSS-2006	EASS 2006「家族」モジュール	EASS 2006	「家族」モジュール
JGSS-2008	EASS 2008「文化とグローバル化」	EASS 2008	「文化とグローバル化」
JGSS-2009LCS	ライフコース調査（パネル調査）	EASS 2010	「健康」
JGSS-2010	EASS 2010「健康」	EASS 2012	「ネットワーク・社会関係資本」
JGSS-2012	EASS 2012「ネットワーク・社会関係資本」	EASS 2015	「仕事と生活」
JGSS-2013LCSwave2	JGSS-2009LCSの追跡	EASS 2016	「家族」
		EASS 2018	「文化とグローバル化」

東アジア社会調査（EASS）とは

EASS（East Asian Social Survey）プロジェクトは、欧米の研究者が中心になりがちな国際比較調査において、東アジア社会に特有な問題や関心に基づいて、共通の設問を設定し、国際比較分析を行おうとするプロジェクトです。2006年から2年に1度、継続的に共通の設問の組み入れを行っています。EASSには、日本（JGSS）・韓国（KGSS）・台湾（TSCS）・中国（CGSS）が参加しています。

JGSS データダウンロードシステム (JGSSDDS)

JGSS データダウンロードシステムは、JGSS と EASS のデータ (表 1) ならびに外部から依頼されて JGSS 研究センターが整備したデータ (表 2) の利用申請とダウンロードができるシステムです。データの共有を効率的に行うために、JGSS 研究センターが国立情報学研究所 (NII) と連携して開発したものです。

また、データ利活用の促進に向けて JGSS データなどを授業で利用する学生が、自由にデータを分析できる環境を提供するために、「JGSS オンライン分析アプリケーション」を開発しました。

JGSSDDS の利用方法などの詳細については、以下のウェブページをご参照ください。

https://jgss.daishodai.ac.jp/jgssdds/jgssdds_guide.html

外部の研究者から依頼されて整備したデータ (表 2)

調査名	研究代表者・寄託者
北大Wave1 (実験データ含む)	山岸 俊男 他
北大Wave2 (実験データ含む)	山岸 俊男 他
ライフスタイルに関する世論調査2013	青柳 みどり
ライフスタイルに関する世論調査2014	青柳 みどり
ライフスタイルに関する世論調査2015	青柳 みどり
東南アジアライフスタイル調査 2016 タイ	青柳 みどり
東南アジアライフスタイル調査 2017 ベトナム	青柳 みどり
環境意識に関する世論調査2016	青柳 みどり
アジアバロメーター調査Wave4日本版	池田 謙一
アジアバロメーター調査Wave5日本版	池田 謙一

本拠点について

大阪商業大学 JGSS 研究センターは、2000 年以降、社会科学の多くの分野をカバーする日本版総合的社会調査を 2~3 年に一度実施し、得られた個票データを国内外のデータ・アーカイブに寄託して、世界中の研究者にデータ分析の機会を提供してきました。この調査には、日本・韓国・中国・台湾の 4 つの社会についての東アジアの比較調査の設問モジュールが含まれています。このような活動をとおして国内外の研究者との共同研究を促進し、日本社会の現状と変容をとらえ、東アジアにおける日本社会の位置づけを明らかにすることを目的としています。

2018 年度から 2022 年度には、JSPS 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業 (JPJS00218077184) を受託し、収集したデータの整備と発信をさらに強化し、既存の学問分野・研究組織・国を超えて、データを共有・利活用する総合的なシステムを構築するプログラムに参画しました。その一環として、データの利活用の促進に貢献するために、JGSS データダウンロードシステムを構築しました。

お問い合わせ

大阪商業大学 JGSS 研究センター

jgssdds@daishodai.ac.jp